

95 余暇の過ごし方の指導

馬居 政幸
静岡大学助教授

●余暇の過ごし方をどう指導するか

学校週5日制の導入で、余暇時間をどう過ごさせるかが検討課題のひとつにあげられている。そのため、文部省の調査研究協力校では「余暇の過ごし方」を学習させる、手引書を作成する、家庭での生活記録を提出させる、など、さまざまな試みが行われた。小学校では具体的にどのような内容について、どの程度の指導と学校の対応策が必要か。

「遊びの価値」と「自律」

学校5日制とは、単に学校の授業が5日になって休みが1日増えることではない。学習指導要領や指導要録の改訂に伴う変更と併せて、生涯学習体系への移行を具体化するためのトータルな教育改革のなかに位置づけなければならない。既存の教育内容の量的な圧縮ではなく、質的に改変することが5日間の課題であり、学校とは異なる教えと学びと育ちの場を子ども自身が創造するための時間として2日間が設けられた、という視点が重要である。とりわけ、学校以外の学びの場を豊かにすることを通じ、子どもの育ちの世界を多様にするこそ、週休2日制ではなく学校5日制と言い換える本義と考える。

その意味で、休日2日の子どものあり方にかかわる余暇指導は、従来の学校教育の延長であってはならない。そのためのキーワードは「遊びの価値」と「自立(律)」である。

「よく遊び、よく学べ」ということわざが示すように、子どもの成長にとって遊びと学びは車の両輪のようなものである。

だが、学校は、ともすれば「よく学べ」の方を優先してこなかったか。たとえ遊びを奨励することはあっても、休み時間か放課後の問題としてとらえ、授業に差し障りのないかぎり、というただし書きがついていないか。学習課題の興味づけのために遊びを授業の導入に用いることはあっても、「さあ、これから勉強です。遊びの時間は終わり！」と声をかけながら、主発問のタイミングをはかる、と

いうことが多いのではないか。いずれも“授業あつての遊び”であって、その逆ではない。

そのため、教師は余暇時間をそれ独自の価値ではなく、勉強時間を十分取った後に余る暇な時間と考えていないか。学校の授業での勉強疲れを癒すための時間であっても、勉強とは異なる子どもの育ちがある、という観点からとらえることは少ないのではないか。

だが、5日制にともなう余暇指導はそうであってはならない。その第一のポイントは、子どもではなく教師自身が勉強とは異なる遊び独自の価値を五感で感得することができるかどうかである。そのためには、子どもの遊ぶ姿に学ぶことから始めなければならない。そのヒントとして、三つあげたい。

5日制の余暇指導三つのヒント

一つは、総合性の価値。子どもは遊びのなかで自分の持っている力のすべてを発揮していないか。子どもにとって遊びは、さまざまな機会に教えられ身につけた多様な知識や技能を総合して実践的に試す場。学校の授業を含め、それまで学び取った知識を自分の生活のなかに知恵として生かすための練習の場が、遊びである。

二つは、創造力の価値。子どもは遊びに必要なものであればなんとか工夫して手に入れ、遊びを妨げる問題には必死に努力して解決しようとするはず。遊びは、子どもが新たな力を自ら生み出す場。教科書や教師からでは学べない、一人ひとりの個性や能力に応じた子ども独自の文化を創造する場が遊びである。

三つは、楽しさの価値。これはあえて説明する必要もないであろう。刻苦勉励や勤勉という言葉が示唆するように、学校の授業は強いて勉める世界。遊びは逆である。自ら進んで行う世界。その理由は楽しいからである。

そして、この楽しさに支えられた総合力と創造力こそ、子どもが自立(律)するための基礎・基本である。自らを律して自ら立つための力は、やはり自ら学び取るしかない。

ただし、このような価値ある遊びの世界を子どもが創造できるためには、多くの人たちの助けが必要である。子どもが安心して元気一杯に遊べる場が必要である。これを用意することが、余暇指導のポイントである。だが、それは特別な指導ではなく、日常の授業を改変することを通じて行うべきである。

すなわち、余暇指導の第二のポイントは、授業のなかに遊びの価値を積極的に取り入れることにより、子どもが遊びの世界を豊かに創造するための基盤を培うことである。そして、実はこれが新指導要領で強調される体

子どもたちをとりまく環境の浄化、子どものための公共施設充実、少年スポーツクラブの活動促進などは、学校週5日制に関係なく実行されていかなければならないと思う。また、「地域の受け皿」として子どもたちのための行事を開催しなければ、子どもの行く場がないのではないかと聞くが、大人とのつき合いのなかった子どもたちにいきなり参加を呼びかけても参加しない。むしろ中学生になると、生徒自身が自主的活動計画を

PTAが指導者となって

●富山県・大泉中学校●
井上 脩(校長)

には、異世代交流を通して、幅広く人間関係の大切さや生き方を学ばせる必要がある。その手がかかりとして、学校開放を中心としたPTAや地域の人々とのふれあい活動から始める必要がある。

具体的には以下のような活動を考えた。①PTA広報で学校の生徒への土曜休業指導内容を理解してもらい、②PTAに土曜休業推進委員会を組織してもらい、ふれあい活動計画を立案してもらい、③PTAにモニターを選出してもらい、生

徒の活動状況の観察や、地域での週5日制に対する意見を集めてもらう、④学校が生徒に配布する土曜休業活動情報を家庭での話題にしてもらう、⑤生徒会執行部・PTA土曜休業推進委員会・学校の三者が会し、土曜休業ふれあい活動計画の意見交換をする、⑥生徒会が、全生徒にふれあい活動種目のアンケート調査をする、⑦PTAが活動計画を具体化する、⑧参加希望の調査をする(教師や親の押しつけをしない、生徒の自主参加を尊重する。PTAを通じて地域の人、小学生にも参加を呼びかける)、⑨教師抜きでPTAだけで完全実施する(参加希望の教師は生徒とともに活動する)、⑩学校から全PTAに配布される毎土曜休業日の「生徒の生活行動のまとめ」を家庭での話題にしてもらう。

生活科の授業の中心は、遊びである。教える人も教師のみでない。地域や家庭の人たちの協力が必要である。授業の場も、子どもの生活の場全体に広がる。このような授業実践により見出され創造される人と場が、子どもの遊びの世界を豊かにする基盤になる。

さらに、このような教師の余暇観と授業実践の転換をより確実に子どもの生活に根づかせるものとして、特別な余暇指導がある。これが三つ目のポイント。その代表として、子どもが休み中に行ったことを記録する「遊びノート」の指導がある。

だがそれは、あくまで教師の日常の教育実践を反省するための資料であって、子どもの遊び方を評価するための手段であってはならない。また、5日制が定着するための過渡的な手立てにすぎないことも強調しておきたい。

研究協力校の実践ポイント

徒の活動状況の観察や、地域での週5日制に対する意見を集めてもらう、④学校が生徒に配布する土曜休業活動情報を家庭での話題にしてもらう、⑤生徒会執行部・PTA土曜休業推進委員会・学校の三者が会し、土曜休業ふれあい活動計画の意見交換をする、⑥生徒会が、全生徒にふれあい活動種目のアンケート調査をする、⑦PTAが活動計画を具体化する、⑧参加希望の調査をする(教師や親の押しつけをしない、生徒の自主参加を尊重する。PTAを通じて地域の人、小学生にも参加を呼びかける)、⑨教師抜きでPTAだけで完全実施する(参加希望の教師は生徒とともに活動する)、⑩学校から全PTAに配布される毎土曜休業日の「生徒の生活行動のまとめ」を家庭での話題にしてもらう。

PTA自身が指導者・講師となり、生徒活動を支援しているが、保護者自身も他人の子を見ることにより自分の子が理解できるようになっている。

●休業日となる土曜日の生活指導をどう行うか

休業日となる土曜日の対応について、学校として、児童の生活指導または生徒指導にあたり、どんなことを配慮することが大切か。また、その日のための生活・生徒指導上の管理や指導体制として小学校の場合のぞましい方法は何か。

学校とは異なる学びの創造

学校とは異なる場に、子どもたちが互いに学び合い育ち合う世界を創造できるかどうか。これが5日制に伴う2日間の休みのあり方を問ううえで最も重要なことと考える。

したがって、休業日となる土曜日への対応は、原則的には2日間の休み全体のあり方として問うべきである。土曜日が特別問題なのではなく、2日連続する休日を子どもがどのように生かすか、が指導の前提になければならない。また、休日の課題は学校教育の延長ではなく、学校では経験できない世界での学びを子どもが創造できるかどうか。地域や家庭という日常の場で、学校や教師からは学ばないさまざまな生活知を、あるいは友だちや先輩や後輩と夢中で遊ぶ過程で多種多様な人とともに生きる知恵を、子どもたちが獲得するための条件づくり。これが課題である（そのための手立ては本誌214頁を参照いただきたい）。

その意味で、休日の生活・生徒指導上の配慮として重要なのは、管理や指導体制を学校の延長で考えることを戒めること。学校とは異なる学びの創造を子どもに期待する以上、その行動を評価する基準も学校内と異なるはずだからである。

ただし、現状では地域や家庭がただちに上記の課題を満す場には変わるとは認めがたい学校も多いであろう。子どもが慣れていないことへの心配もあろう。他方、先に214頁で指摘したような授業の改変を通じての基盤づくりの効果が顕れるには、時間がかかることも

否定できない。そのため、5日制移行への当面の処置として、土曜休日の日に対して準備すべき課題を4点提起したい。

休業土曜の生活指導四つの課題

一つは、子どもが日常接する人たちの理解と協力を得るために、学校5日制の意義とその具体化への方策を検討しあう場を積極的に設けることである。たとえば、PTAでの論議、各種地域組織・社会教育関係者との連絡会議の開設、町内会や商店組合の会合に教師が参加しての問題点の相互確認、事故防止のためにバスやタクシーなどの交通機関への依頼、などが考えられる。また、その際の主要論点として、次のようなものがあげられる。

学校5日制の意義が単なる週休2日ではなく、学校では学べない世界を子どもに用意することであること。そこでは、子どもと接するすべての大人が教師であり、いま子どもたちに必要なのは生活者から直接学ぶことであること。重要なのは、子どもを管理するためではなく、見守り援助する人のネットワークをどれだけ広げることができるか、であること。そして、このようなネットワークの核にするために、地域にあるさまざまな施設と交渉・相談することが二つ目の課題である。たとえば、図書館・公民館・博物館・郷土館・体育館などの社会教育施設や文化施設と交渉して、休日となる土曜日の開館時間の調整や料金の割引（無料）などにより、子どもが利用しやすくなる。

あるいは、このような施設は必ずしも小学生が利用することを前提につくられていない。

子ども自身、施設使用のマナーを知らない場合も多い。他の利用者から苦情が出るかもしれない。これらを想定し、施設改良や使用規定の見直しを施設の監督機関と相談する必要もある。各施設による小学生対象の施設使用講習会、児童会主催の高学年による低学年の指導など、地域の公的施設利用のルールを学ぶ機会として生かす工夫も必要である。

これと関連して、三つ目の課題は、子どもたち自身によるネットワークづくりのための機会を用意することである。冒頭で提起したように、休日の意義は「子どもたちが互いに学び合い育ち合う世界」を創造することである。あくまでも主役は子どもたち、大人は見守り援助する存在、直接指導は可能なかぎり避けるべきである。

そこで重要なのは、どれだけクラスの間関係を超えて、多様な子ども同士の結びつきが生まれるかどうか。そのための準備として、学校内で異年齢集団を積極的に形成し、学区内の小・中学校が連携して中学生が小学生を指導する機会をつくること、あるいは子ども

たち自身で休日のあり方を考えるために、隣接学区の児童会による合同会議などを試みる必要がある。社会教育施設の利用との関係で、高校と連携し、高校生ボランティアを育てる機会にすることも重要ではないか。

最後に四つ目の課題は、教師自身のこと。自分の生活する地域に戻り、教師ではなく地域のおじさんやおばさんや兄さんや姉さんの立場から、改めて子どもたちの指導のあり方を見直してほしい。生活の場で育つ子どもの姿に学ぶことにより、学校での生活・生徒指導が学校の外の子どもの生活とズレていないかどうかを省みてほしい。

子どもを学校に適合させることは、あくまで手段。教育の目的は卒業後の人生であるはず。だが、とすれば学校でしか生きられない子どもを育てていないか。教師が自己の教育のあり方を生活者の目から検証するための時間と空間、これが週休2日制ではなく学校5日制と言い換える教師にとっての、最も重要な意義であると考えられる。

研究協力校の実践ポイント

平成3年度はその反省に立ち、振り替え分を月の各週で行うことにより、裁量時間を各週2回設定でき、年間授業時数も確保できた。

2. 月2回以上では週時程に工夫が必要

月2回の土曜休業日の設定は試みていないので、具体的なことは言えない。2回以上の土曜休業日の設定の場合は、現在の教育水準を維持するという意味からも、週時程の組み方に工夫が必要となってくる。

先進校の例から、月2回の場合は、教科の授業をすべて月曜日から金曜日まで組み込んで、土曜日の3時間の時間割は、クラブ活動を連続2時間組み、残り1時間を学校裁量時間とする方法がよいのではないかと考える。

完全学校週5日制の移行に当たっては、学習指導要領の別表2の見直しが必要であると考えられる。

番号…教科、道…道徳、ク…クラブ、学…学活

1. 年間授業時数の確保

学校週5日制の試行にともない、週時程を工夫してみた。休業土曜日は月1回であったので、週時程は表のようにした。

下記の表1のように、土曜日に教科・道徳・クラブを組み入れた。平成2年度は、表2のように、休業日となる土曜日の授業はその週の月金金の裁量時間に振り替え、実施した。そのために休業日となる週の時間割は、月～金曜日まですべて6時間目までとなり、学校裁量時間が削減されてゆとりがなくなった。

表1 授業のある土曜日の時間割

	月	火	水	木	金	土
1	①	⑥	⑫	⑱	⑲	⑲
2	②	⑦	⑬	⑲	⑲	道
3	③	⑧	⑭	⑲	⑲	ク
4	④	⑨	⑮	⑲	⑲	
5	⑤	⑩	⑯	⑲	⑲	
6	裁	⑪	裁	⑲	裁	

表2 休業日となる土曜日の時間割

	月	火	水	木	金	土
1	①	⑥	⑫	⑱	⑲	
2	②	⑦	⑬	⑲	⑲	
3	③	⑧	⑭	⑲	⑲	
4	④	⑨	⑮	⑲	⑲	
5	⑤	⑩	⑯	⑲	⑲	
6	⑲	⑲	⑲	⑲	ク	

●沖縄県・越来中学校
●“ゆとり”確保へ配慮
新城 勇 (校長)

47	職業課程教育内容の精選 …安彦忠彦／梶谷正義 118	64	高校生の学力低下への対応 中野目直明／大橋信定 152
48	児童の主体的能力の育成 …天野正輝／奥井貞夫 120	65	小学校の“ゆとり” 倉田侃司／小菅瑳都志 154
49	生徒の主体的能力の育成 …大田邦郎／今井清隆 122	66	中学校の“ゆとり” …深谷昌志／佐野金吾 156
50	高校生徒の主体的能力育成 ……金澤孝／松浦光雄 124	67	高校の“ゆとり” …新堀通也／原田哲矢 158
51	小学校年間授業時数の運用 高田喜久司／中松和子 126	68	職業課程の“ゆとり” …永井聖二／原田哲矢 160
52	中学校年間授業時数の運用 …新井郁男／今井清隆 128	69	中学校選択教科の位置づけ …南本長穂／佐野金吾 162
53	高校年間授業時数の運用 中野目直明／松浦光雄 130	70	中学校選択教科の位置づけ …高桑康雄／佐野金吾 164
54	職業課程年間授業時数の運用 …小川幸男／梶谷正義 132	71	高校の選択教科・科目 …稲葉宏雄／原田哲矢 166
55	小学校削減時数の振り分け 澤井昭男／小菅瑳都志 134	72	職業課程の選択教科・科目 斎藤健次郎／原田哲矢 168
56	中学校削減時数の振り分け …岡東壽隆／今井清隆 136	73	小学校体験的学習の充実 ……佐藤晴雄／藤田隆 170
57	高校削減時数の振り分け …大石勝男／松浦光雄 138	74	中学校体験的学習の充実 …池田秀男／手嶋義和 172
58	職業課程削減時数の振り分け …清水希益／松浦光雄 140	75	高校体験的学習の充実 ……溝上泰／原田哲矢 174
59	児童の学習負担増 ……秋山和夫／藤田隆 142	76	職業課程体験的学習の充実 …永井聖二／大橋信定 176
60	児童の学習負担増 ……三枝孝弘／藤田隆 144	77	小学校学校行事の精選 …相川高雄／狩俣秀雄 178
61	中学生の学習負担増 清水毅四郎／手嶋義和 146	78	中学校学校行事の精選 ……高橋哲夫／新城勇 180
62	児童の学力低下への対応 村川雅弘／小菅瑳都志 148	79	へき地学校学校行事の精選 …岸田元美／山本光徳 182
63	中学生の学力低下への対応 …清水一彦／佐野金吾 150	80	高校学校行事の精選 …高旗正人／大橋信定 184

81	小学校の部活動・クラブ活動 …相川高雄／狩俣秀雄 186	84	授業のある土曜の活動 …若井彌一／狩俣秀雄 192
82	中学校の部活動・クラブ活動 ……高橋哲夫／新城勇 188	85	高校授業のある土曜の活動 ……中留武昭／森恭一 194
83	高校の部活動・クラブ活動 …高旗正人／大橋信定 190	86	職業課程授業のある土曜の活動 斎藤健次郎／大橋信定 196
《指導内容・方法における対応》			
87	小学校指導内容・方法の工夫 …霜田一敏／狩俣秀雄 198	91	小学校教科等外活動と日課表 高田喜久司／鷹見進二郎 206
88	中学校指導内容・方法の工夫 …村山正明／佐野金吾 200	92	中学校教科等外活動と日課表 …水本徳明／徳野秀敏 208
89	小学生の新しい学習リズム 村瀬隆二／鷹見進二郎 202	93	学習の遅れがちな児童の指導 ……加藤幸次／森恭一 210
90	中学生の新しい学習リズム …高階玲治／徳野秀敏 204	94	学習の遅れがちな生徒の指導 清水毅四郎／徳野秀敏 212
《生活・生徒指導における対応》			
95	小学生への余暇指導 ……馬居政幸／井上修 214	103	中学生の体験的・創造的活動 ……小川剛／高城修身 230
96	中学生への余暇指導 ……滝充／手嶋義和 216	104	高校生の体験的・創造的活動 …中西信男／小川一郎 232
97	へき地学校の余暇指導 …吉村英明／山本光徳 218	105	職業課程の体験的・創造的活動 ……仙崎武／大橋信定 234
98	高校生への余暇指導 ……秦政春／小川一郎 220	106	小学生の部活・自由研究活動 武村重和／鷹見進二郎 236
99	休業土曜小学生の生活指導 ……馬居政幸／新城勇 222	107	中学生の部活・自由研究活動 ……小川剛／徳野秀敏 238
100	休業土曜中学生の生活指導 ……滝充／高城修身 224	108	高校生の部活・自由研究活動 ……佐藤晴雄／森恭一 240
101	休業土曜高校生の生活指導 ……秦政春／小川一郎 226	109	留守家庭児童への対応 坂本昇一／佐々木千恵子 242
102	小学生の体験的・創造的活動 武村重和／佐々木千恵子 228	110	留守家庭生徒への対応 …木原孝博／高城修身 244

I 学校5日制移行への条件は整ったか

教員の勤務をめぐるQ & A	清水孝悦	2
幼稚園・特殊教育諸学校・私立学校の5日制の課題	高倉翔	7
定時制・通信制高等学校の5日制の課題と対応	永野稔	11
社会教育関係諸団体との連携	瀬沼克彰	14
学校週5日制移行への社会状況と背景	徳武靖	16
学校5日制をどうすすめるか	有園格	20

II 「5日制」学校の組織と運営

《学校週5日制実施へ向けての準備と対応》

1 生涯学習社会の5日制 川野辺敏/佐々木千恵子	26	9 高校教職員の共通理解 ……荻堂盛治/川島誠一	42
2 児童・保護者への趣旨説明 ……永岡順/大橋博	28	10 小学校5日制への準備 ……久高喜行/大橋博	44
3 生徒・保護者への趣旨説明 ……伊津野朋弘/井上修	30	11 中学校5日制への準備 ……小松郁夫/井上修	46
4 生徒・保護者への趣旨説明 ……大脇康弘/川島誠一	32	12 へき地学校5日制への準備 ……北神正行/山本光徳	48
5 家庭の協力 ……遠山益/大橋博	34	13 高校5日制への準備 ……荻堂盛治/川島誠一	50
6 家庭の協力 ……篠原昭雄/川島誠一	36	14 職業課程5日制への準備 ……鐘ヶ江晴彦/梶谷正義	52
7 小学校教職員の共通理解 ……児島邦宏/大橋博	38	15 塾通いへの対策 ……結城忠/佐々木千恵子	54
8 中学校教職員の共通理解 ……小松郁夫/井上修	40		

《学校経営における対応》

16 小学校の校内体制 ……天笠茂/中村妙子	56	28 小学校勤務・組織の再検討 ……若井彌一/鷹見進二郎	80
17 中学校の校内体制 ……岡東壽隆/田邊義彦	58	29 小学校勤務・組織の再検討 ……角替弘志/藤田隆	82
18 へき地学校の校内体制 ……北神正行/山本光徳	60	30 中学校勤務・組織の再検討 ……木岡一明/高城修身	84
19 高校の校内体制 ……大石勝男/川島誠一	62	31 高校勤務・組織の再検討 ……中留武昭/青山武光	86
20 職業課程の校内体制 ……清水希益/梶谷正義	64	32 職業課程勤務・組織の再検討 ……小川幸男/梶谷正義	88
21 小学校の環境づくり ……宮本三郎/野口雄志	66	33 小学校教師の力量形成 ……吉村英明/安本すみ江	90
22 中学校の環境づくり ……岩永定/田邊義彦	68	34 中学校教師の力量形成 ……八尾坂修/田邊義彦	92
23 へき地学校の環境づくり ……水本徳明/山本光徳	70	35 高校教師の力量形成 ……佐竹勝利/青山武光	94
24 農山村学校の環境づくり ……遠藤盛男/手嶋義和	72	36 地域内小学校間の連携 ……遠藤盛男/奥井貞夫	96
25 大都市学校の環境づくり 荻原元昭/佐々木千恵子	74	37 地域内中学校間の連携 荻原元昭/吉倉功/天野多美子	98
26 小学校と社会教育との連携 ……天笠茂/遠藤正	76	38 地域内小・中学校の連携 木岡一明/吉倉功/天野多美子	100
27 中学校と社会教育との連携 ……岩永定/田邊義彦	78		
		《教育課程における対応》	
39 小学校教育課程編成・実施 ……高浦勝義/奥井貞夫	102	43 小学校中学年教育内容の精選 ……南本長穂/長島純子	110
40 中学校教育課程編成・実施 清水一彦/吉倉功/天野多美子	104	44 小学校高学年教育内容の精選 ……村川雅弘/湯口数雄	112
41 高校教育課程編成・実施 ……高野桂一/青山武光	106	45 中学校教育内容の精選 水越敏行/吉倉功/天野多美子	114
42 小学校低学年教育内容の精選 ……明石要一/高橋純子	108	46 高校教育内容の精選 ……金澤孝/松浦光雄	116